



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

96.6.27 No. 4421

社員の安全より

特改の方が

大事なのか!

六月二四日、千葉支社において、新木駅における二回にわたる襲撃事件に関する団交が開催され、総武支部の当該二名を含め出席し、千葉支社のこの襲撃事件に関する対応の遅さを追及してきた。また同日、四月八日に防護無線の錠前が盗難にあったことを理由にした津田沼支部組合員に対する事情聴取に関する支社の不透明な対応についても団交で追及してきた。

発生している状況である以上、即中止すべきである。しかし、千葉支社は、二カ月以上も抜本的対策を何らとらな

いままとなつてゐる。今回の団交においても、千葉支社が回答した対策とは、①警察に警備を依頼した。②勤務体制を見直す。(具体的には、七月より二名の徹夜勤務で対応する。と現場では言われている。)

と頑なに、特改中止を拒否した。またも「防犯ブザーを携帯させた」などの回答に終始!

支社の回答は、余りにも不誠実である。二回の事件ともたまたま特改要員のいない時間帯に発生して事なきを得たが、もし、業務の最中に発生していたら、人命に係わる事件となつていたかもしれない。JR東をめぐって列車妨害をはじめ異常事態が発生しているのにも係わらず、特改を続ける自体危険だ。

四月二〇日の事件が発生した時点で警察に警備の強化を依頼している。この間の列車妨害の団交に

おいても、異常事態に対する支社の対策として回答したことは、警察に依頼したことのみではないか。

新木では、この間、防犯ブザーの携帯、コードレス電話を設置し、対策をとってきた。夜間の特改は危険だから、中止するよう申し入れてきた。痴漢対策の防犯ブザーなどで身は守れない。防犯ブザーを鳴らすは、この間、防犯ブザーを鳴らせば、効果はある。

特改は、金を扱っている。もしも襲撃されて、防犯ブザー鳴らしたら逆に強盗を刺激するだけ、深夜のコンビ二襲撃でも、襲われたら抵抗せず金を渡せと指導されている。へたに抵抗すると殺人事件に

なっている。防犯ブザー云々は、この間もさんざん議論した話、支社は、労務対策を優先させてばかりいるから、感覚がマヒしている。なぜ、中止出来ないのか。

特改業務は、牽制効果がある。社員の安全と特改のどちらが大事なのか。

運転士の夏季輸送要員は、欠員でも知らんぷり

しかも、車掌の助勤については、それなりに行うとしているが、夏季輸送期間中要員の張る千葉運転区(日刊四四一三号既報のとおり)には、助勤者二名(それも、退職者・長欠者の補充各一名で終わってしまうので実質〇)ということではない。実際千葉運転区では、夏季輸送期間中の土日には一〇名以上の欠員状況となつてしまひ、休日勤務に頼らなければ臨時列車が動かないという極めていびつな要員状況となつてゐる。

六月五日に明らかにした当局の余裕人員は、習輪区十二名、京輪区十一名、千転区五名、鴨輪区一名、銚転区三名であり、車掌への下職充当があつたとしても、夏季輸送の関係のない習志野では四名の余裕をもつてゐる。どうして千葉支社は、運転士の要員について真剣に考えようとしていないのか。

習志野運輸区 八名
京葉運輸区 五名
津車区↓千葉車掌区 四名
京輪区↓千葉車掌区 二名
習輪区↓津田沼車掌区 五名
千車区↓成田車掌区 二名
千車区↓鴨川運輸区 一名
の車掌の助勤を行うというものである。

この間千葉支社は、地域間移動によつて車掌の要員不足はまかなえると組合に説明してきたが、結局地域間移動は無理となり、この下職充当を行うとしてきたのだ。

動労千葉組合員が過半数を占める千葉運転区には「一切助勤を断ぜざるを得ない」として